

平成28年度事業計画

はじめに

混沌として社会情勢の定まらない中、当連盟は、次のような視点に立って平成28年度の事業を展開してまいります。

1、運営については、現理事全員について、理事選出規程に照らして、役員改選を行います。そして、18ある委員会組織を見直し、新たな需要に対応するため、2名の理事を増やし、女子委員会、学校委員会を新設します。また、空席であった副会長も含め、27人の理事を選出し、新しい執行部を編成の上、対処してまいります。

委員会数が20となるため、これらの委員会を関連のある委員会ごとに8部にまとめ、相互に連携を深めながら効率的、効果的な委員会活動を目指してまいります。8部には8人の常任理事が部長、副部長となり、委員会ごとの集約と連絡調整を図ってまいります。

2、次に地域活性化センターから400万円の補助金を受け実施してまいりました全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会も昨年度第10回大会を終わり、補助金が打ち切られることとなりました。本年度第11回大会以降、当連盟独自の大会として運営してまいります。

全国の少年大会は全国各地で実施されておりますが、各都道府県から選抜された少年剣士の代表者により日本一を決める大会は、この大会のほかにはありません。甲子園が高校野球のメッカであり、また、花園競技場が高校ラグビーのメッカである如く、舞洲を少年剣道のメッカとして定着させたいものです。そして、ここから、数々の物語を作り出すそんな大会に育てたいものです。

少子化の中にあって、この命題を死守し、さらに発展させることは、剣道文化を受け継ぎ、次代に引き渡さねばならない我々現在剣道人の使命であるようにも思えます。共催者でもある大阪市とも相談の上、独立行政法人日本スポーツセンターの「スポーツ振興基金助成金」を申請し、この大会の存続に向け努力を続けたいと思います。

昨年は、そのことを見越して1人3000円、1団体5000円、1法人10000円の賛助会員募集を行いましたところ、お陰様で300万円ほどのご協力をいただいておりますが、更なるご理解とご支援をお願いするものです。

3、ゆるぎない財政基盤の確立は、法人経営にとって必要不可欠の問題です。公益社団法人としては、赤字を出すのは良くありませんがさりとて、単に、利益を生めばよいというものでもなく、収支相償が要求されております。公益法人としての難しい経営の壁が横たわっております。

今年度経常収支で赤字が出てまいります。これは昇段審査受審者数の減少が響いております。全国的に会員の減少傾向がみられる中、大阪府での少年期の減少は見られず、むしろ微増の傾向にあります。しかし、中学生以下の会員の会費は無料としておりますので、問題は大人になってからどんどんと高段位を目指して稽古を続ける剣士が増えることが

求められます。

剣士諸兄の大いなる奮起を望み 3 年前から実施してまいりました六段以上の高段位受審者講習会は、参加者が非常に少なく期待外れでありました。しかし、受講者の中からの合格率は非常に高く、講習会の効果は予期した以上に上がっていることが判明いたしました。八段を例にとれば、ここ 3 年間にこの講習会を 1 度でも受講した 60 人のうち 7 人が合格いたしております。実に、12 パーセントの合格率です。七段は、38 名中 18 人（47 パーセント）六段は 69 名中 20 人（27 パーセント）と高合格率となっており、やはり講習会開催の意義は大いにあるように思えます。合格を願う受審者の皆様の受講を切に願うするものです。

4、平成 30 年前後には、教職員の全国大会、中学校全国大会、道場連盟の全国大会、居合道地区講習会、杖道地区講習会など大阪を会場として開催される全国規模の行事が目白押しであり、当該各団体ではそれなりの財政的方策を考えていただいているでしょうが、当連盟としても、応分の負担の必要があると思われまます。今からその方策を考えておかなければなりません。そのため、来年度からは、賛助会員の皆様の更なる増加とあわせ、減少傾向にある、昇段受審者の皆様の受審料・登録料などの値上げを検討せざるを得ない状況になってきております。当連盟の受審料、登録料、会費等は、他府県に比べ比較的安く設定されておりますが、消費税増税など問題が多い中であります。剣友諸氏の格別のご理解とご協力を切にお願いいたします。

5、その他、定款に定められた、各種大会・講習会・講演会の開催、昇段・昇級審査会の開催、各種大会等への選手・役員の派遣、功労者表彰、安全対策等々諸事業につきましても、引き続き実施してまいります。

6、府下各体育館では、スポーツ種目・活動の多種化・多様化による稼働率の上昇や指定管理者制度導入による収益重視の傾向などにより、アマチュアスポーツ団体の使用は、非常に窮屈な状態となり、年々苦戦を強いられております。事務局としては、何とか従来の活動が維持できるよう粘り強く折衝を続けてまいります。また、従来からのお知らせのほか、ホームページ、メルマガ等を利用した広報活動の充実、会員各位への対応など従来に増して満足していただける事務執行に努めてまいります。